

奥会津の魅力を活かす！レールがつなぐ 自然と食の満喫モデル構築事業について ～企業版ふるさと納税のご案内～



(写真提供：奥会津郷土写真家 星賢孝)

福島県について



福島県

- 人口 1,787,126人
(令和4年12月1日現在)
- 面積 13,783.90平方キロメートル
(北海道、岩手県に次いで全国で3番目)
- 県章は、ひらがなの「ふ」を図案化したもの



只見線への主な交通手段

東京及び首都圏から会津若松まで

列車

東京駅
↓
東北新幹線
(約1時間20分)
↓
郡山駅
↓
磐越西線《各停》
(約1時間20分)
↓
会津若松駅

車

川口JCT
↓
東北自動車道
(約130分)
↓
郡山JCT
↓
磐越自動車道
(約45分)
↓
会津若松IC
↓
国道49号 & 118号
(約10分)
↓
会津若松市

東京及び首都圏から小出まで

列車

東京駅
↓
上越新幹線
(約1時間20分)
↓
浦佐駅
↓
上越線《各停》
(約10分)
↓
小出駅

車

大泉JCT
↓
関越自動車道
(約150分)
↓
小出IC
↓
国道291号ほか
(約30分)
↓
南魚沼市四日町
(小出)

J R 只見線について



- 沿線は国内有数の豪雪地帯
- 沿線を流れる只見川には、10基のダムと水力発電所

(写真提供：奥会津郷土写真家 星賢孝)



- 全国屈指の秘境路線
- 「紅葉の美しい鉄道路線 ベストテン」で第1位に選ばれたことも

平成23年7月新潟・福島豪雨

- 東日本大震災が発生した同年の7月に発生
- 新潟・福島両県の多くの地点で観測史上1位となる降水量



- 只見線の被害も大きく、会津川口・只見間では3つの橋りょうが流失
- 不通区間はバスによる代行輸送が続いた

J R 只見線の全線復旧

全線運転再開記念列車に手を振る方々



●地元の強い想いを受け、鉄道施設等を自治体が保有し、列車の運行をＪＲが担う「上下分離方式」による全線復旧が決定

●2022年10月1日に、被災から約11年ぶりに全線で運転再開



只見駅に到着した記念列車

「日本一の地方創生路線」を目指して



● 絶景、只見線首都圏等誘客事業

只見線の全線運転再開を記念し、県内外からの誘客を促進するツアーを実施



● 来て。只見線沿線魅力発信事業

おもてなしを更に強化する商工団体等の支援や、インバウンド回復を見据えたガイドブックの作成等



● 乗って。只見線利活用促進事業

沿線市町村と連携し、企画列車等の実施により会津地域への誘客を促進



● 只見線を活用した学びの場支援事業

只見線学習列車を実施するとともに、只見線の利活用策を発表する高校生サミットを開催

只見線を活用した学習列車事業



選奨土木遺産に認定された大谷川橋りょう



縄文文化を継承する奥会津編み組細工

●事業の目的

- ・沿線に数多く存在する教育資源をいかした学びの場としてのブランド確立
- ・奥会津地域や只見線の魅力を学ぶことを通じた地域への愛着心の醸成

●事業の概要

- ・福島県内の小学校及び特別支援学校の児童・生徒が対象
- ・只見線の乗車とセットで沿線地域において実施する体験学習等に対して、只見線乗車運賃や貸切バス費用、高速道路利用料金を支援

只見線を活用した学習列車事業



地元ガイドによる案内



みの着付け体験

●事業効果

- ・ 学びの場としてのブランド確立や地域への愛着心の醸成
 - ▶ 実施してみると支援学校からの申し込みが多い（15/48クラス）
 - ▶ 只見線への乗車が、障がいのある子供たちにとって、貴重な社会体験を提供する場にもなっている

●事業費 12,778千円

●想定参加人数 1,800名

問い合わせ先・まとめ

- J R 只見線の利活用、企業版ふるさと納税（只見線関係）について

福島県生活交通課 星（ほし）

電話：024-521-7177

メール：koutsuu@pref.fukushima.lg.jp

只見線に関する情報は「只見線ポータルサイト」

<https://tadami-line.jp>

- ご寄附のメリット

- ・ ホームページや広報誌への企業名掲載、寄附金受納式によるPR
- ・ 沿線地域の活性化による販路拡大や人材育成

- 寄付金の使途

寄附金は、只見線を活用した体験型ツアーや周遊ルートの整備、只見線関連コンテンツの充実等、只見線利活用事業に活用させていただきます。

秘境路線と言われる沿線地域の観光資源を活用し、日本一の地域創生路線を目指し、更なる利用者の拡大と認知度向上を図ります。

ご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます